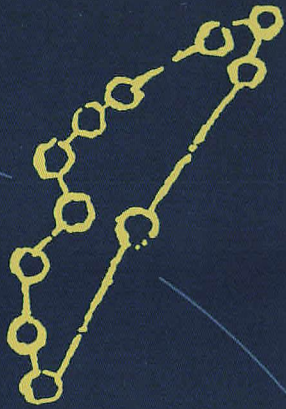




大將軍八神社



- 市バス「北野天満宮前」下車 南西へ200m
- 市バス「北野白梅町」下車 南東へ300m
- 京都駅より市バス約50分
- 京阪出町柳駅より市バス約20分
- 阪急西院駅より市バス約15分
- 京都駅よりタクシー約20分
- 阪急西院駅よりタクシー約10分
- 京阪出町柳駅よりタクシー約15分
- JR門町駅より徒歩約15分・タクシー約5分



大將軍八神社

〒602-8374 京都市上京区一条通御前西入西町48
 Tel.075-461-0694 Fax.075-461-0684
<http://www.daishogun.or.jp>
 社務所受付：午前9時～午後5時

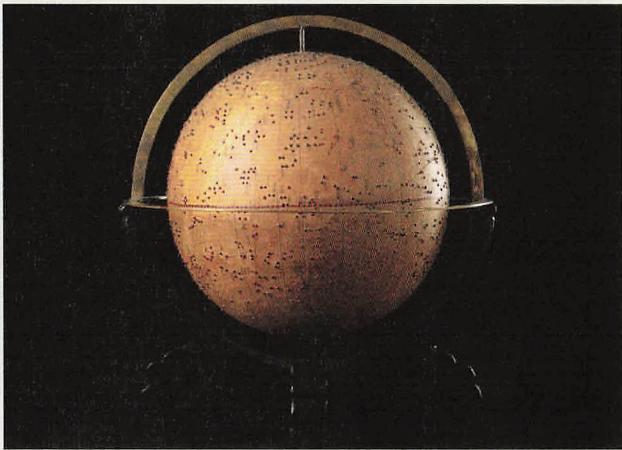


年中行事

- 一月一日——歳旦祭
- 一月七日——人日の節供祭(七草)
- 一月——中——成人式
- 二月節分の日——節分星祭・古神札焼納祭
- 二月十一日——紀元祭
- 二月十七日——祈年祭
- 三月三日——上巳の節供祭・雛祭(桃花)
- 三月春分の日——春季霊祭
- 五月五日——端午の節供祭(菖蒲)
- 六月三十日——水無月の大祓式・夏越神事

- 七月七日——七夕の節供祭(七夕星祭)(笹)
- 八月十五日——盆祭(みたま祭)
- 九月九日——重陽の節供祭(菊花)
- 九月敬老の日——敬老祭
- 九月秋分の日——秋季霊祭
- 十月(例祭前日)——宵宮祭
- 十月第三日曜日——天門祭(例祭)
- 十二月二十三日——新嘗祭・御火焚祭
- 十一月——中——七五三詣
- 十二月三十一日——師走の大祓式・年越神事

※毎月一日・月始祭、二十三日・月次祭
 ※諸祈願御祈禱随時受付しております(昇殿祈禱は要予約)。



天球儀



大將軍神像



本殿

御祭神

大將軍神 だいしやうぐんしん (素盞鳴尊 すさのおのみこと・天津彦根命 あまつひこねのみこと)

大歳神 だいさいしん (天忍穗耳命 あめののおしほみみのみこと)・大陰神 だいおんしん (市杵嶋姫命 いちきしまひめのみこと)

歳形神 さいぎやうしん (田心媛命 たしりひめのみこと)・歳破神 さいはしん (湍津姫命 たつひめのみこと)

歳殺神 さいころしん (天穗日命 あめのほひのみこと)・黄幡神 おうばんしん (活津彦根命 かつひこねのみこと)

豹尾神 ひょうびしん (熊野樟日命 くまのくすびのみこと)

左客人宮 聖武天皇

右客人宮 桓武天皇

大しやうたつといふ河原には

大將軍こそ下りたまへ

あつらひめぐり諸共に

下り遊うたまへ大將軍

平安時代歌謡集『梁塵秘抄』より

御由緒

当社は延暦十三年(七九四年)平安京遷都の際、桓武天皇の勅願によって、奈良春日山麓より大將軍神を平安京大内裏の北西角(陰陽道の天門)の地に勧請し、国家守護、国民の繁栄を祈念したのが始まりです。

大將軍神とは、陰陽道・道教の信仰による方位を司る星神であり、この神の方位を犯すと厳しい咎めを受けるというので、古来、非常に恐れられてきました。

社号は初め、陰陽道のお堂として大將軍堂と称され、応仁の乱の荒廃後に神社として復興。江戸時代に大將軍神を始め、暦の神八将神とスサノオノ命その御子八神が習合。又、聖武・桓武両天皇を共に祀りし、大將軍八神宮と改称。白虎大將軍の通称で京都西方守護の信仰や、方除厄除十二社参りの一社として参詣を集め、明治以降に現名称となりました。

平安朝以来、王城鎮護の神として篤い崇敬を受け、現在も建築・移動・婚姻・旅行・交通等毎日の生活に於いて、あらゆる厄災から人々を守護する方除・厄除の神として信仰されています。

方徳殿(宝物庫)

当殿には、八十体の大將軍神像群(重要文化財)が立体星曼荼羅様に安置されています。

ご神像は木像で、大將軍信仰が最高潮に達した平安時代中期から鎌倉時代(十世紀〜十三世紀)にかけて奉造。像の形式は武装像五十体、束帯像二十九体、童子像一体となっています。他、殿内には陰陽道安倍家、又、江戸幕府天文方・洪川春海等に関わる古天文暦道関係資料(京都府指定文化財)や、平安時代より現代に亘る数多くのご神宝類を保存展示しています。

■ 通常開館日

五月一日〜五日、十一月一日〜五日

■ 開館時間

午前十時〜午後四時

■ 拝観料

一般五〇〇円・学生三〇〇円〔団体(十五名様以上)一〇〇円引〕

※開館期間以外でも受付致します。(要問合せ)ただし、年中行事期間・十二月三十日〜一月七日は休館。